

女子大生の体型と着装に対する意識と実態（第2報）

—体型と服種による印象変化—

三木 幹子, 植木 由香, 池田 並穂, 本永 恵理華

(2013年1月9日受理)

Female College Students' Consciousness toward Body Shape and Dressing, and Their Actual State(Part.2)
—Changes of Impression with Body Shapes and Clothes Types—

MIKI Motoko, UEKI Yuka, IKEDA Namiho, MOTONAGA Erika

Abstract

The previous paper revealed the differences between males and females through the attitude survey with male and female university students on body shapes and dieting. In this paper, a visual sensory test was conducted with the images of five females of different body shapes wearing six clothes of different designs. The finding was that the differences of body heights and shapes lead to the differences of colors and designs of the clothes they look nice in. Among evaluators, females distinguish the changes of body shapes with clothes, while males do not. In addition, among female evaluators, there was a negative correlation between the size of one's breasts and the evaluation of body shapes. Therefore, it became clear that a body shape with big breasts is not necessarily ideal for females.

I はじめに

前報（三木等2012）において、女子大学生および男子大学生を対象に、体型およびダイエットに関する意識調査を行った結果、女性は自分の体型にコンプレックスを持っており、自分のスタイルに対しての評価が厳しいが、男性は自分の体型やダイエットへの関心が低い等、男女の意識の違いが明らかになった。

日常において女性が服を着用する際、外見的な体型補正や、自己のイメージについての印象管理を行っている。着用する服のデザイン、色彩、サイズ、丈は、着用者の身長や身体の周径等の視覚効果に影響を与えているといえる。また、服着用時に対する視覚評価は、女性と男性では異なるのではないかと考える。

そこで本研究では、体型が異なる女性が、デザインが異なる服を着用した際の視覚的印象について、女性と男性を被験者として視覚官能評価を行った。

II 調査方法

- 1 調査時期 2010年6月および2011年9月
- 2 調査対象 被験者は女子大学生58名、男子大学生25名、合計83名である。
- 3 調査内容 着用モデルとして、身長と体型が異なる学生5名を選出した（モデルA～Eとする）。モデル5名の体型およびサイズの詳細を表1に示す。次に、デザインが異なるワンピース6種（服①～服⑥）を用いて、5名のモデルに着用してもらい、正面方向から全身写真を撮影し画像試料とした。評価に用いた服着用画像試料30種（モデルA①～モデルE⑥）を写真1に示す。

表1 モデルA～Eの体型および身体計測値

	モデルA	モデルB	モデルC	モデルD	モデルE
体型	標準体型	短身／やせ	中背／肥満	長身／やせ	長身／過体重
JISサイズ ¹⁾	7ABR	3YP	17ABR	5AT	15ABT
身長 (cm)	154.5	149.1	155.2	168	165.8
体重 (kg)	47.3	35	72.6	50	66
バスト (cm)	80	69	94	77	92
ウエスト (cm)	61	57	78	65	76
ヒップ (cm)	92	78	103	90	101
BMI ²⁾	19.82	15.74	30.14	17.72	24.01



写真1 画像試料（モデルA～E，服①～⑥着装写真）

次に、女性の体型やスタイルに関する評価項目（形容語対）を11組選定し、男女被験者に各画像試料を見てもらい視覚評価を行った。評価にはSD法を用い、各項目について「そう思う」「ややそう思う」「どちらでもない」「ややそう思う」「そう思う」の5段階で回答してもらった（評価に用いた形容語対は図1～図5、表2、表3等を参照）。

Ⅲ 結果・考察

1 官能評価プロフィール

女性被験者および男性被験者の各質問項目に対する評価平均を算出し、モデル別に図1～図5の官能評価プロフィールに示す。服①～⑥により線の色とマークを変え、また女性の評価を実線で、男性の評価を点線で示している。

図1 モデルA（標準体型）に対する評価では、服②は男女ともに「手足が長く見える」「背が高く見える」「胸が強調される」の評価が高かった。また服⑤と服⑥は男女ともに「手足が短く見える」「似合っていない」「胸が強調されない」「めりはりがない」「男性受けが悪い」と評価されていることがわかる。服②のようなハイウエスト切り替えのマキシ丈ワンピースの場合、縦方向が強調されるため、身長や手足の長さも連動して強調されると思われる。服⑤、服⑥は全体のゆとり量が多く、体型を隠す効果があるため幅方向が強調されたと思われる。また、男女で評価に差があったのは、服②、服③の「似合っている」と、服③の「魅力がある」「めりはりがある」であった。これらに対しては、女性よりも男性の方が評価が低い傾向が見られる。特に服③のような、フリル装飾、蝶柄、リボンベルトといったフェミニンなデザインの服に対して、女性の方が支持が高いといえる。

図2 モデルB（短身、やせ）に対する評価を見ると、服①は女性被験者から「似合っていない」「スタイルが悪く見える」「魅力がない」「背が低く見える」と評価されていることがわかる。黒色の服は通常引き締め効果があり、女性に好まれる色であるが、服のサイズや丈が体に合っていない（サイズオーバー）場合、身体の小ささが強調されてしまい、かえって評価が低くなるようである。服②はほとんどの項目で評価が一番高い結果となった。

図3 モデルC（中背、肥満）を見ると、ほとんどの服に対して評価が3点「どちらでもない」よりも低いことがわかる。特に女性よりも男性の方が低く評価している。その中でも高い評価を示したのは、女性被験者の服①に対する「スタイルがよく見える」「体型がカバーできる」である。これは黒色の服の着やせ効果の影響と、ベルトによるウエストマーク、ギャザースカート、パフスリーブの対比効果による相乗作用であると思われる。同じくパフスリーブでギャザースカートの服④の場合は、白色の膨張色であるため、男性被験者からは「体型

がカバーできない」「背が低く見える」等と評価されていることがわかる。

図4 モデルD（長身・やせ）の場合、服③が女性から「手足が長く見える」「スタイルがよく見える」「背が高く見える」等と評価されている。上半身の装飾やウエストリボン等が、適度なボリューム感と視線の分散効果をもたらしたことの影響ではないだろうか。服①は「似合っていない」「痩せて見える」と評価されていることから、黒一色の服が、身長と痩せ体型を過度に強調してしまったことが要因だと思われる。

図5 モデルE（長身・過体重）の結果を見ると、服③は女性被験者から「手足が長く見える」「スタイルがよく見える」「やせて見える」「魅力がある」「めりはりがある」と評価されていることがわかる。これらの評価は男性被験者との差が大きいことから、男性は、他の服と比較した体型変化の見え方の違いを、女性ほどは明確に認識していないのではないかと考える。

全体的に、女性被験者は「胸が強調される」の項目について各服の印象の違いを明確に評価しているのに対して、男性被験者はほとんどの服に対して「胸が強調されない」と評価している。男性が唯一「胸が強調される」と評価したのは服②であることから、男性被験者は大きく開いた服の胸元を見て評価しているのに対して、女性被験者は服の上から見たシルエットで評価しているといえる。

2 単相関係数

服着用画像の視覚評価に用いた11個の形容語対間における単相関係数を表2-1（女性被験者）、表2-2（男性被験者）に示す。検定の結果、相関が有意であった組合せに**（ $p < 1\%$ ）または*（ $p < 5\%$ ）を記している。この2つの表から、女性被験者と男性被験者の意識の違いを比較する。

女性、男性どちらの単相関係数についても有意であった組合せを見ると、「スタイルがよく見える」と「やせて見える」「体型がカバーできる」「魅力がある」「背が高く見える」「男性に受けがよい」等の間に高い相関が見られた。このことから、女性、男性に共通して、背が高く痩せていて、細く見えることがスタイルの良さであり、異性・同性の両者から見て魅力的な体型であるという認識を持たれている。

女性被験者と男性被験者で差が見られた単相関係数の組合せは、「胸が大きいー小さい」と他の形容語対の関係である。男性の場合、「胸が大きい」と「手足が長く見える」「スタイルがよく見える」「魅力がある」「背が高く見える」「めりはりがある」「男性に受けがよい」との間には正の値の相関が確認できるが、女性被験者の場合はこれらの組合せの単相関係数はマイナスの値を示している。すなわち、女性から見た「胸が大きい」体型は、「手足が短

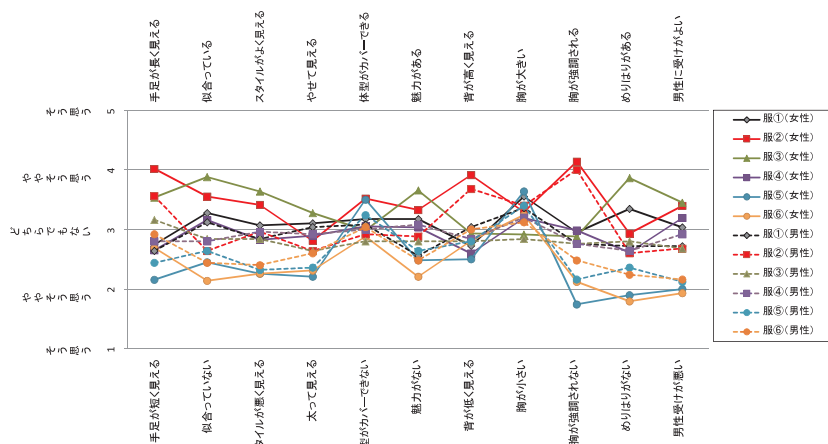


図1 官能評価プロフィール(モデルA)

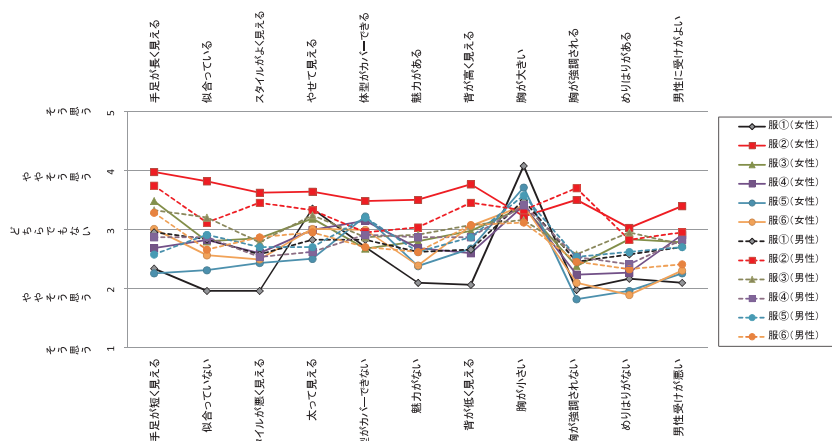


図2 官能評価プロフィール(モデルB)

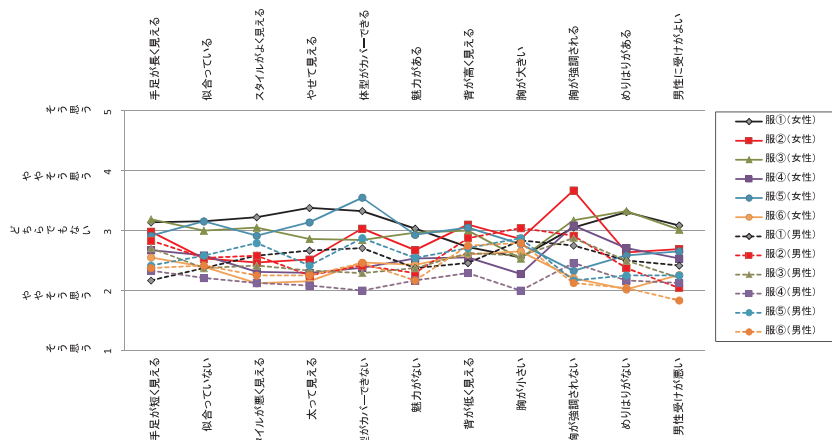


図3 官能評価プロフィール(モデルC)

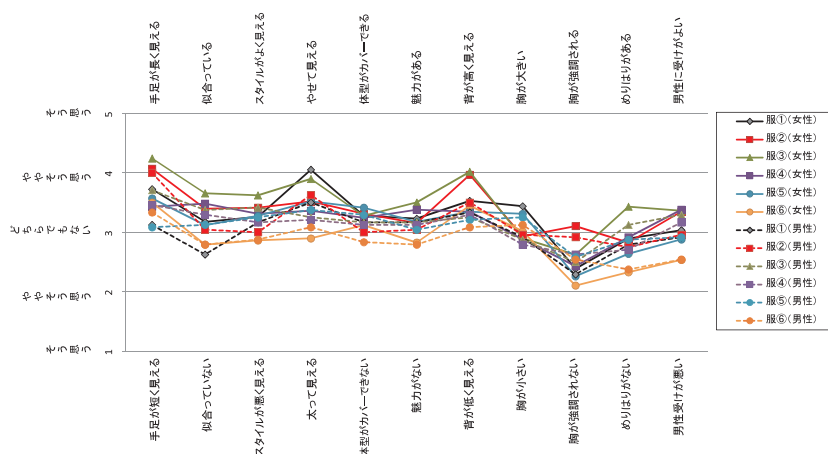


図4 官能評価プロフィール（モデルD）

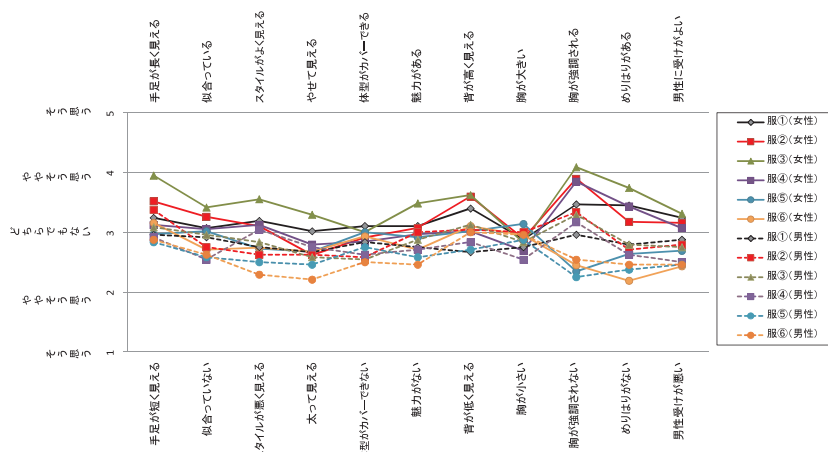


図5 官能評価プロフィール（モデルE）

く見える」「スタイルが悪く見える」「魅力がない」「背が低く見える」「めりはりがない」「男性受けが悪い」等のイメージを持つということである。このことから、女性にとって胸が大きい体型は、必ずしも好ましいものではないということがわかった³⁾。

3 因子分析

女子大学生および男子大学生の服着装画像に対するイメージの基本因子を抽出するために、11個の形容語対を変数に、被験者83名の30種の画像に対する評価を観測回数として因子分析を行った。因子分析には主因子法を用い、バリマックス回転法により、軸回転後の因子負荷量および各被験者の因子得点を求めた。

表 2-1 単相関係数 (女性)

単相関	手足が長く見える-手足が短く見える	1.0000 -	似合っている-似合っていない	1.0000 -	スタイルがよく見える-スタイルが悪く見える	1.0000 -	やせて見える-太って見える	1.0000 -	体型がカバーできる-体型がカバーできない	魅力がある-魅力がない	背が高く見える-背が低く見える	胸が大きい-胸が小さい	胸が強調される-胸が強調されない	めりはりがある-めりはりがない	男性に受けがよい-男性受けが悪い
手足が長く見える	1.0000	-													
似合っている	0.5457	**	1.0000	-											
スタイルがよく見える	0.4897	**	0.6327	**	1.0000	-									
やせて見える	0.4191	**	0.4484	**	0.5141	**	1.0000	-							
体型がカバーできる	0.3050	**	0.4371	**	0.4382	**	0.4348	**	1.0000	-					
魅力がある	0.4756	**	0.6815	**	0.6096	**	0.4767	**	0.4594	**	1.0000	-			
背が高く見える	0.5508	**	0.4378	**	0.4401	**	0.3686	**	0.3068	**	0.4969	**	1.0000	-	
胸が大きい	-0.0946	**	-0.0723	**	-0.0253	**	0.0773	**	0.1074	**	-0.0024	**	1.0000	-	
胸が強調される	0.2653	**	0.2756	**	0.2717	**	0.1119	**	0.0590	**	0.3259	**	0.2803	**	1.0000
めりはりがある	0.3274	**	0.4589	**	0.4537	**	0.3521	**	0.2194	**	0.5144	**	0.3109	**	0.5100
男性に受けがよい	0.4530	**	0.6025	**	0.5406	**	0.4137	**	0.3322	**	0.6717	**	0.4433	**	0.5869
男性に受けが悪い															1.0000

無相関の検定 **p < 1 %, *p < 5 %

表 2-2 単相関係数 (男性)

単相関	手足が長く見える-手足が短く見える	1.0000 -	似合っている-似合っていない	1.0000 -	スタイルがよく見える-スタイルが悪く見える	1.0000 -	やせて見える-太って見える	1.0000 -	体型がカバーできる-体型がカバーできない	魅力がある-魅力がない	背が高く見える-背が低く見える	胸が大きい-胸が小さい	胸が強調される-胸が強調されない	めりはりがある-めりはりがない	男性に受けがよい-男性受けが悪い
手足が長く見える	1.0000	-													
似合っている	0.4007	**	1.0000	-											
スタイルがよく見える	0.4526	**	0.6150	**	1.0000	-									
やせて見える	0.4251	**	0.4297	**	0.6009	**	1.0000	-							
体型がカバーできる	0.2796	**	0.4752	**	0.5246	**	0.5478	**	1.0000	-					
魅力がある	0.3824	**	0.6269	**	0.5603	**	0.4680	**	0.4954	**	1.0000	-			
背が高く見える	0.4583	**	0.3104	**	0.4108	**	0.3748	**	0.2662	**	0.3938	**	1.0000	-	
胸が大きい	0.1016	**	0.1119	**	0.0941	**	0.0947	**	0.2267	**	0.1275	**	1.0000	-	
胸が強調される	0.2908	**	0.2700	**	0.2813	**	0.1398	**	0.0860	*	0.3153	**	0.2800	**	1.0000
めりはりがある	0.2913	**	0.3965	**	0.4359	**	0.2984	**	0.3014	**	0.4160	**	0.2482	**	0.4349
男性に受けがよい	0.3472	**	0.5639	**	0.5669	**	0.4216	**	0.4451	**	0.6939	**	0.3684	**	0.5454
男性に受けが悪い															1.0000

無相関の検定 **p < 1 %, *p < 5 %

因子分析を行った結果、表3に示すような2因子が抽出された（第2因子の固有値は1.0に満たないがほぼ1に近いので採用することにした）。

因子負荷量より各因子の意味を検討した結果、第1因子は、「手足が長く見える－短く見える」「似合っている－似合っていない」「スタイルがよく見える－悪く見える」「やせて見える－太って見える」「魅力がある－ない」等の因子負荷量が高い値を示していることから、“総合的なスタイルの良さの因子”と解釈した。

第2因子は、「胸が強調される－されない」「めりはりがある－ない」の因子負荷量が高い値を示していることから、“女性としての魅力の因子”と解釈した。

表3 因子分析

因子負荷量：回転後（バリマックス法）

変数名	第1因子	第2因子
	総合的なスタイルの良さ	女性としての魅力
手足が長く見える－短く見える	0.6165	0.1557
似合っている－似合っていない	0.7525	0.1914
スタイルがよく見える－悪く見える	0.7537	0.1394
やせて見える－太って見える	0.6702	－0.0521
体型がカバーできる－できない	0.6208	－0.1391
魅力がある－魅力がない	0.7679	0.2521
背が高く見える－低く見える	0.5720	0.1647
胸が大きい－小さい	0.0618	－0.1126
胸が強調される－強調されない	0.2589	0.5461
めりはりがある－めりはりがない	0.4761	0.5372
男性に受けがよい－悪い	0.6661	0.4152
固有値	4.0071	0.9649
寄与率（%）	36.43	8.77
累積寄与率（%）	36.43	45.20

4 因子得点の分布

服着用画像の視覚評価の各因子について因子得点を算出し、各画像の因子得点の位置関係を検討した。第1因子を横軸に第2因子を縦軸にとり、各画像の結果を女性被験者と男性被験者とをマークを変えて分布させ、図6にモデルA、図7にモデルB、図8にモデルC、図9にモデルD、図10にモデルEの各分布図を示す。

図6モデルAの分布図より、服②と服③は女性の評価が第1因子、第2因子共にプラスの領域に分布しており、女性から見るとスタイルがよく、女性らしさを強調する服装であるといえる。また、男女で比較をすると、服②と服③は男性よりも女性の方が第1因子が高く、これらの服装をスタイルがよく見えると評価していることがわかる。このことから、女性は服のディテールによる視覚的体型の変化に対して敏感であるといえる。服⑤と服⑥は女性、男性どちらも第1因子、第2因子がマイナスの領域に分布しており、スタイルが悪く見え、女性らしさを表現していない服装として評価されている。ただし、男性の方が女性よりも第2因子が高いことから、男性は服②服③のように身体にフィットしていない、露出の少ない服装に対して、女性ほどはメリハリがないとは感じていないようである。

図7モデルBの分布図より、服②のみ男女とも第1因子、第2因子がプラスの領域に分布しているが、服①、服④、服⑤、服⑥は第1因子、第2因子がマイナスに評価されていることがわかる。身体にフィットし、丈方向を強調したデザインの服②の場合、小柄な体型をカバーすることができるが、幅方向に余裕があり、引き締め効果のある色彩の服はかえって痩せ体型を強調するようである。女性と男性を比較すると、服①、服⑤、服⑥は女性の第2因子の値が男性よりも低くなっている。女性はゆとり量が多い服に対して、身体のラインを強調していないことを明確に評価していることがわかる。

図8モデルCの分布図より、ほとんどの画像は第2因子がマイナスに分布しているが、その中でも女性の服①と服⑤への評価は、第1因子がプラスに分布していることがわかる。服①は黒色とベルトマークが体型をカバーし、パフスリーブが腕を細く見せる効果がある。また服⑤は身幅のゆとりと着物スリーブにより、身体のラインを隠す効果がある。女性被験者と男性被験者を比較すると、全画像について女性の方が男性よりも第1因子が高くなっており、服によって評価が異なるのに対して、男性は服による評価の差があまり見られない。このことから、女性は服装による体型の違いを相対的に比較しているのに対して、男性は絶対評価をしているといえる。

図9モデルDの分布図より、男性の場合、服⑥以外の全画像が第1因子がプラス側に分布しており、長身、痩せ体型のモデルの場合、どのタイプの服装でも高い評価を得ることができるといえる。女性と男性を比較すると、モデルA、モデルBと同様に、服⑤、服⑥の評価について、男性よりも女性の方が第2因子の値が低い傾向が見られる。このように女性被験者は、理想とする体型モデルに対しても、ゆとり量が多くウエストシェイプのない服装を、女性らしさが低いと評価していることがわかる。

図10モデルEの分布図より、服①、服②、服③の女性被験者の評価は、第1因子、第2因子がプラスの領域に分布しており、女性はこれらの画像をスタイルが良く、女子らしい体型

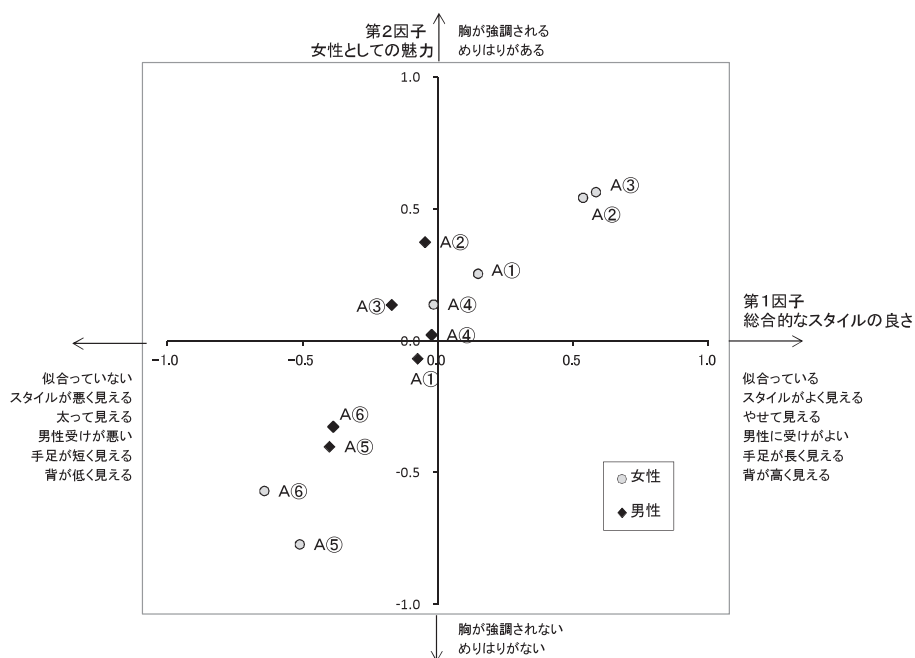


図6 因子得点の分布図（モデルA） 画像A①～A⑥ 男女比較

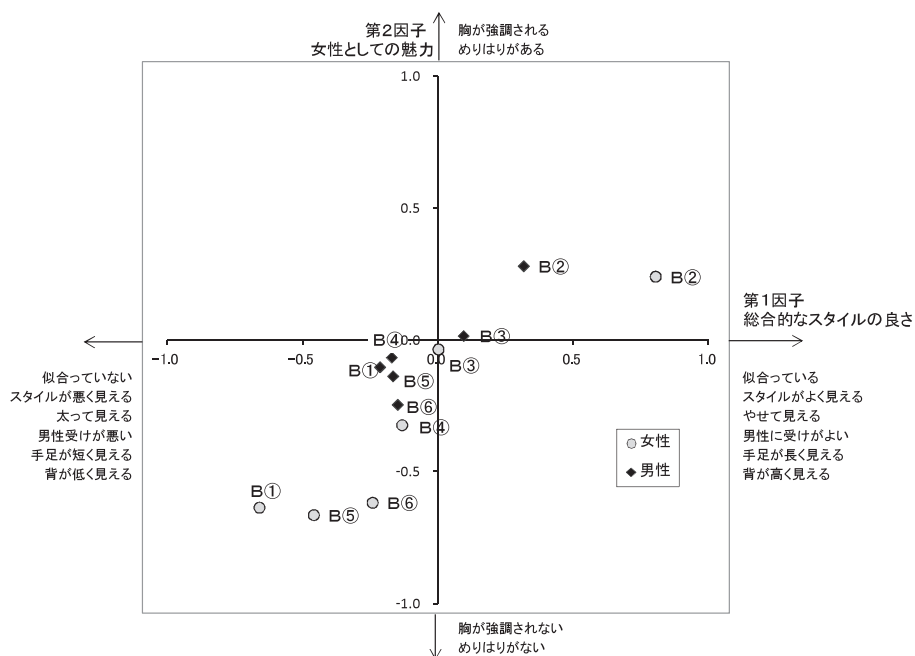


図7 因子得点の分布図（モデルB） 画像B①～B⑥ 男女比較

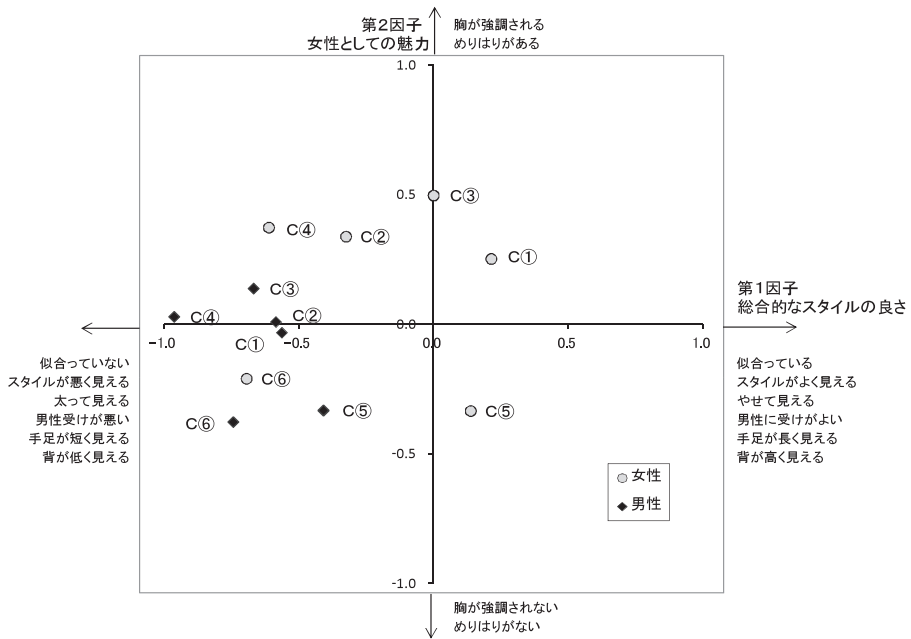


図8 因子得点の分布図 (モデルC) 画像C①～C⑥ 男女比較

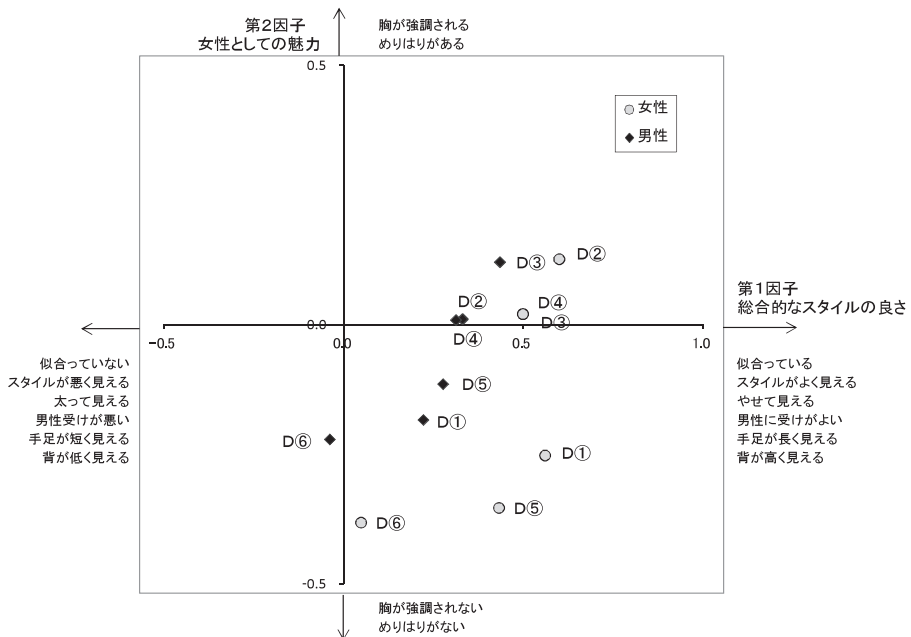


図9 因子得点の分布図 (モデルD) 画像D①～D⑥ 男女比較

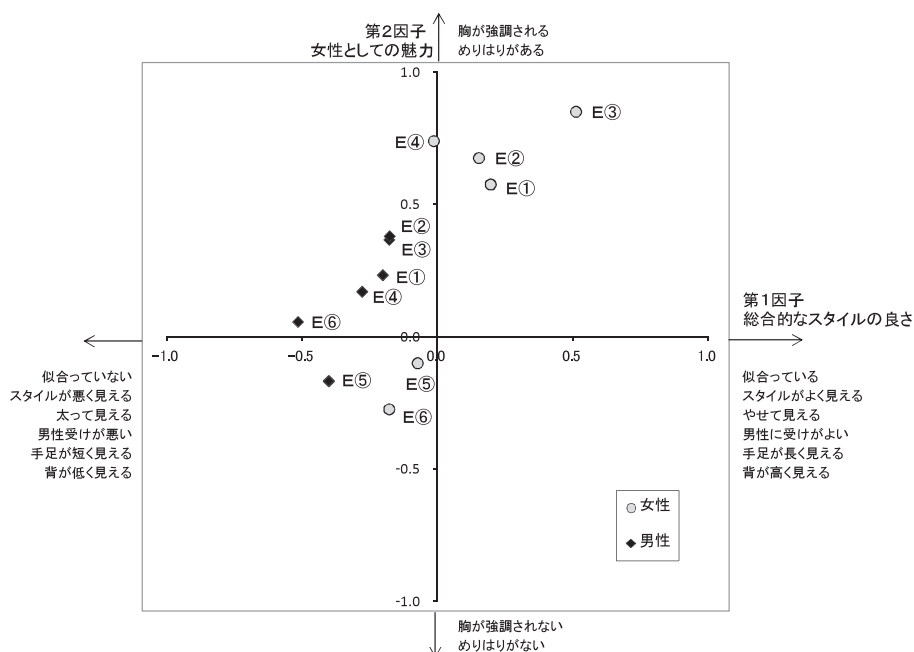


図10 因子得点の分布図（モデルE） 画像E①～E⑥ 男女比較

であると評価している。モデルEのような長身で大柄体型のモデルの場合も、服①、服②、服③の持つ色彩、縦長、視線拡散等の効果が有効に働いているといえる。男女の評価を比較すると、男性はすべての画像が第1因子がマイナスに分布しているが、画像間の値の差が小さい。また服⑤以外は第2因子がプラス側に分布している。モデルCの結果と同様、女性被験者の方がふくよかな体型の女性に対して、男性よりも好意的な評価をする傾向が見られる。

女性は各画像のスタイルの良さを明確に評価しており、服装による視覚的体型の変化に敏感であり、違いを詳細に見分ける能力を有しているといえる。

ま と め

体型の異なる5名のモデルに、デザインの異なる6種の服を着てもらい、計30種の着装画像について、視覚官能評価を行った。

1 着装画像の視覚評価についての官能評価プロフィールにより、以下のことが明らかとなった。

- (1) 標準体型のモデルの場合、ハイウエスト切り替えのロング丈ワンピースは、身長と手足の長さが強調されるため評価が高かった。反対に、ゆとりが多く、幅方向が強調され

る服の場合は評価が低くなった。また、フリル、リボン等のフェミニンなデザインの服に対しては、男性よりも女性の方が評価が高くなる等の男女差が見られた。

- (2) 小柄で痩せ体型のモデルの場合、サイズが大きい黒色の服は、かえって身体の小ささを強調するため評価が低くなる傾向が見られた。
- (3) 中背で肥満体型のモデルの場合、男性被験者はどの服種に対しても評価が低いのにに対して、女性被験者は、黒色の服の着やせ効果を明確に評価していた。
- (4) 長身で痩せ体型のモデルの場合、黒一色の服は体型を強調しすぎるため、女性被験者からの評価は高くないが、装飾と色柄による視線分散効果のある服に対しては、「スタイルがよく見える」と高く評価をする傾向が見られた。
- (5) 長身で肥満ぎみ（過体重）体型のモデルの場合、女性の方が男性よりも、服種による体型変化の違いを明確に認識していた。また「胸が強調される」かどうかの評価については、男性被験者は実際の胸元を見て評価しているのに対して、女性被験者は服の上から見たシルエットで評価する傾向が見られた。

2 視覚評価に用いた形容語対間の単相関係数より以下のことが明かとなった。

- (1) 男女被験者に共通して、背が高く、痩せていて、細く見えることがスタイルの良さであり、魅力的な体型であるという認識を持たれていた。
- (2) 「胸が大きいー小さい」と他の形容語対相関について男女で比較すると、男性被験者はスタイルの良さとの間に正の相関が見られたが、女性の場合はマイナスの相関であった。このことから、女性にとって胸が大きい体型は、必ずしも理想体型ではないといえる。

3 服種の異なるモデルの着装画像の印象について因子分析を行った結果、“総合的なスタイルの良さの因子”“女性としての魅力の因子”の2因子が抽出された。

4 因子得点の分布図より、各モデルの服種別評価を比較した結果、以下のことが明らかになった。

- (1) 標準体型のモデルの場合、男性よりも女性の方が、服のディテールによる視覚的体型の変化に対してはっきりとした評価をする傾向がある。また、ルーズフィットで、露出の少ない服装に対して、女性の方がメリハリがないと評価をしていた。
- (2) 小柄で痩せ体型のモデルの場合、フィット性があり丈長の服は、小柄な体型をカバーするが、黒色の服はかえってやせ体型を強調する傾向がある。また男女を比較した場合、女性はゆとり量が多い服に対して、身体のラインを強調していないことを明確に評価していた。
- (3) 中背で肥満体型のモデルの場合、黒色でウエストシェイプの服や、身幅の広いゆった

りとした服については、女性被験者の評価が高くなったが、男性被験者は服による評価の違いが見られなかった。このことから、女性は服装による体型の違いを相対的に比較しているのに対して、男性は絶対評価をしているといえる。

- (4) 長身で痩せ体型のモデルの場合、どの服装に対しても評価が高かったが、女性被験者は、ゆとり量が多くウエストシェイプのない服装を、女性らしくないと評価する傾向がある。
- (5) 長身でやや肥満（がっしり・筋肉質）体型のモデルの場合、収縮色、縦長効果、視覚拡散効果のある服に対して、女性被験者の評価が高くなった。また、女性被験者の方が、男性よりもふくよかな体型の女性に対して、好意的な評価をする傾向が見られた。

おわりに、アンケートにご協力いただいた皆様へお礼を申し上げます。

注

- 1) 成人女子用衣料のサイズ（JIS L 4005-1997）による体型区分表示

A体型：それぞれの身長とバストの組合せにおいて出現率が最も高くなるヒップのサイズで示される人の体型

Y体型：A体型よりヒップが4 cm小さい人の体型

A B体型：A体型よりヒップが4 cm大きい人の体型

R：身長158cmの記号。 P：身長150cmの記号。 T：身長166cmの記号。

- 2) BMI（体格指数：Body Math Index）：肥満の程度を表す指数。体重kg÷身長²m²で計算される。BMI標準値は一般的には22とされる。
- 3) 胸が大きいことに悩む女性のために、胸が小さく見えるブラジャーを販売している下着メーカーもある（セシール、2012年）。

文 献

三木幹子，植木由香，池田並穂，本永恵理華，「女子大生の体型と着装に対する意識と実態—女性と男性の理想体型とダイエット意識の比較」，『広島女学院大学生活科学部紀要』，第19号，2012年3月，pp.1-15

文化服装学院編『服飾造形の基礎』，文化出版局，2012年

「カタログ通販セシール」オンラインショップ，<http://www.cecile.co.jp/detail/1/INBS1B000048/>，

2012年12月26日

『女性の暮らしと生活意識データ集2011』, 三冬社, 2010年